

平成21年度 前期入試問題の講評

【I】

「正確に英文を読み取る力」と「読み取った英文を意味の通る日本語で表現できる力」の2点を確認することを意図して出題した。「英文の英語（つまり、単語・熟語・構文・文法）」及び「設問の英語」のレベルは高校3年間で学習するレベル内に抑えてあるので、設問・英文ともにじっくりと読めば、「読み間違い」（解釈の間違い）が生ずることがないと思われる。

しかし、実際には、語彙知識や文法知識の不足に起因している間違いが多く見受けられた。また、「それぞれの設問で何が問われているのか」「何を答えればいいのか」が把握できていない受験生が多くいたようである。

以上のことから3つの学習課題が考えられる。①なお一層、語彙知識や文法知識を向上させることが必要である。②設問をじっくりと読み、その設問で「何が問われているか」をしっかりと理解して、「適切な解答」ができる訓練を行う。③普段から新聞や書籍に積極的に目を通し法律・経済・異文化理解・国際関係等に関する背景的知識を養っておくことも大切である。

設問 1

この設問では、第1段落に書いてある具体的な事故の内容とその事故（「雪がきちんと除雪されていないために、道路で転倒する」）に関連して、アメリカ人が期待する補償を詳細に述べることが求められている。正答率は良好だったが、「事故の内容を詳細に述べるように」という設問を無視し、事故に関してまったく言及されていない解答が散見された。設問をしっかりと読み、「何を答えたらよいのか」というポイントを確実に理解することが完全正解への近道である。

設問 2

この設問では、「腕のいい弁護士への支払いを依頼人が心配する必要がない理由」が書いてある箇所を英文中より抜き出すことが求められている。解答になる箇所の英文のみを抜き出せばよいのに、「解答箇所を含む英文全文」や「解答箇所を含む英文とその前後の英文」まで抜き出している解答が見受けられた。この設問でも、(quoteという語に気をつけて)「何を答えればよいのか」をしっかりと把握して、「求められている箇所」を適切に答えることが必要となる。

設問 3

この設問では、第3段落の英文からan ambulance chaserの定義と、その用法を見つけ、それらを詳細に述べることが求められている。しかし、受験生の解答の中には、第3段落の英文には触れず、「an ambulance chaserに関して自分の推測に基づいて考えた定義や用法」を書いている解答がかなり多く見受けられた。既に述べたが、問題文をよく読み、「問われていること」に適切に答える練習をしながら対策を行うことが肝要である。

設問4

この設問では、第4段落の英文から下線部(1)に書いていることを可能にしている法的根拠を見つけ説明することが求められている。正解は「生後20年間は、誕生時の障害に関して訴訟をおこせるから」というものになるが、この箇所を見つけることすらできていない受験生が多くいた。これは、英文を正確に読むための、単語・熟語の知識、構文の知識等が十分養成されていなためであると考えられる。

設問5

この設問では、「作者がデパートの階段を転げ落ちた時、誰がどのような理由から責任を問われることになるか」を英文中から見つけ日本語で答えることが求められている。しかし「まぐさに責任がある」、「店の客に責任がある」等と書いた受験生が多数いたことから、the store manager may be at fault for not having made sure that the stairway was well lit.の解釈が正確にできていないことがわかる。この中で使われているthe store manager, be fault for, make sureは基本的な単語・熟語である。また、not having made sureという表現の文法の仕組み、light-lit-litの不規則動詞の変化形も学習しているはずである。「語彙知識、文法知識」がしっかりと身につけていないために、解答箇所の英文を解釈できない」という状態になっているのが正解率の低さの原因であると考えられる。

【II】

全体の講評

センター試験のリスニング問題とは異なる形式の問題で、受験生のリスニング力を多角的に量ることを意図して出題した。

第一部

空欄に入る単語を選択肢から選ぶという極めて簡単な問題である。しかし、満点を取れていない受験生が多くいた。聞き逃したとしても、空いている時間を使って、意味から正解を予測することができたはずである。

第二部

比較的正確率が高かった。予め問題の英文に目を通しておけば簡単に解答できる問題である。

第三部

Part 1

英語の問いへ英語で答えるという形式の問題である。これまでの英語学習の中で、これと似た形式の問題は何度も解いているはずである。しかし、正確率は極めて低かった。「選んで答える」だけでなく、「書いて答える」こともできるかどうか。それができる受験生と、できない受験生との違いを引き立たせることを意図した。

答え方のポイントを3つ挙げると、①この問題も、予め問題の英文に目を通しておけば解答は容易になるはずである、②long answerでなくても、的確に答えたshort answerであれば正解になる、③年号を答える場合は算用数字(アラビア数字)で十分であり、数字を全て綴って書き表す必要はない。内容を正しく理解しているかが重要であるが、例えば、9 (nine), 9th (ninth), 19 (nineteen), 90 (ninety)など聞き間違えると大きな違いが生じてしまうので、基礎的な聞き取る力を養成することも必要である。

Part 2

英文とそれが解説している作品を選ぶという問題である。問題の英文は1度しか読まれていないが、作品の中にはPart 1で触れられているものもあるので、合計3回読まれている作品もある。残念ながら、満点の答えは意外と多くなかった。1点の差で合否は決まるので、第一部と同様に、確実に点数を取れる問題で取ることが大切である。

【III】

英文自体は、基礎的または標準的なレベルの語彙や表現で書かれているので、日常の学習と標準的な試験対策で対応できるだろう。したがって、【I】で記した3つの学習課題で十分な対応が可能であると考えられる。

設問 1

この設問は選択問題であるが、文章の流れや内容把握ができていないと正しい選択肢を選ぶことはできない。問題箇所の前後の英文をしっかりと理解して、語彙力と文法知識を駆使して答えることが肝要である。正答率は悪くなかったが、入学試験では、このような問題で着実に得点をしていくことが大切である。

設問 2

並べ替えの英作文問題である。英語構文に関する理解の度合いに応じて差がついた問題である。(B)と(C)の中に関係詞があるが、言うまでもなく、関係詞について理解することは英語学習の中できわめて重要である。関係詞について理解することは、英語の構文の組み立てを理解することにつながるからである。したがって、入学試験で頻繁に出される構文・文法事項である。

設問 3

比較的正答率が高かった。第4パラグラフの冒頭の疑問文Where did the English language come from?がヒントになるだろう。

設問 4

(あ)では、関係副詞whereとhelpの用法が理解できているかどうか重要なポイントである。(い)の英文は第3文型で書かれており、S、V、Oを一語ずつ挙げるとlanguage、changed、wayとなる。また、過去分詞usedの後置修飾や前置詞byの意味も重要となる。この構造と修飾関係を見抜けないと解釈はできない。

一般に、英文和訳の問題では、単語の訳し間違いよりも、構文の取り違いや理解不足の方が大きく減点される。したがって、「取りあえず何か日本語を書いておけば点数がもらえるだろう」と期待しても、得点に結びつかないものである。学問に王道なし。日頃の学習の積み重ねしかないのである。

【IV】

この数年、同じような形式の問題が出題されているので、対策が講じやすいはずである。書き方の指示<Instructions for Paragraph Writing>を守ることが最低限の要件である。トピックglobal warmingについては、日常生活や学校生活・学習で既知情報となっているだろう。それに基づいて、自分の考えを整理して、文法的な間違いをしないように気をつけながら書くことが肝要である。

何か書いておけば点数がもらえると期待して、無関係のことを書いたり、他の問題の英文を写したり、指示の英文を日本語に訳しても得点できないのは明らかである。